

平成29年度 第1回芦屋市水道事業経営審議会 質問回答	
質問No.	1
質問者	脇本委員
質問内容	本市の水道料金と比べて伊丹市・宝塚市が安いのはなぜか？
回答	<p>水道料金の差は、水をつくる給水原価に左右されますので、給水原価で各市の特徴をみてみます。</p> <p>◇芦屋市：給水原価175円/m³ ◇伊丹市：給水原価144円/m³</p> <p>伊丹市では、水道水をつくる浄水費用が約40円/m³ですが、芦屋市は、約89円/m³かかっています。</p> <p>この差の理由は①自己水源（淀川・猪名川）が豊富なこと、②浄水場が1か所（約9万m³/日）であること、③給水人口が約20万人④地形的に平坦なため、配水池が3か所（芦屋10か所）でよいことなどによります。また、事業規模が大きいため職員を効率的に配置でき、人件費も抑えられています。</p> <p>◇宝塚市：給水原価162円/m³</p> <p>宝塚市では、水道水をつくる浄水費用が約63円/m³です。（芦屋市は、約89円/m³）</p> <p>しかしながら、地形的に高低差が激しいため、適切な水圧で各家庭に水を供給するために約40か所の配水池（芦屋10か所）や加圧所を多く所有しています。そのため、配水費は16円/m³（芦屋8円/m³）かかっています。配水費を加えて比較すると、宝塚市79円/m³、芦屋市97円/m³となります。</p>

平成29年度 第1回芦屋市水道事業経営審議会

質問回答

質問No.	2
質問者	杉島委員
質問内容	<p>芦屋市水道ビジョンが何回か変遷を辿ってきているが、その度にどのような点が変わってきたのか？</p>
回答	<p>厚生労働省が平成16年6月に「水道ビジョン」を発表するとともに、各水道事業者等へ地域水道ビジョン策定を推奨する通達が出されました。</p> <p>◎平成21年9月 芦屋市水道ビジョン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画期間 平成21年～平成32年度 <p>芦屋市水道事業のこれまでの歩みを振り返り、現状と将来見通しを分析・評価し、目指すべき将来像を描き、将来像を実現するため、経営理念、経営目標、主要施策を提示しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営目標 <p>○「持続」ある水道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政の健全化を図り、効率的な水道事業運営を行う。 ・芦屋市の水道文化を継承するために、水道技術に携わる人材確保・育成を行う。 <p>○「安心・安全・安定」な水道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強い水道施設整備を行う。（老朽施設の更新及び耐震化） ・直圧直結給水システムの拡大により水質の安定化を図る。 <p>○「環境」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然エネルギーを利用した小水力・太陽光発電等の導入を検討。 <p>○「情報公開」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道利用者とのコミュニケーションの充実を目指す。（ホームページ等） <p>その後、厚生労働省は人口減少時代の到来や東日本大震災の経験など、水道を取り巻く環境の大きな変化に対応するため、「安全」、「持続」、「強靱」の観点から「新水道ビジョン」を策定しました。これを踏まえ、以下のとおり芦屋市水</p>

<p>道ビジョンを策定しました。</p> <p>◎平成26年3月 芦屋市水道ビジョン</p> <p>人口減少の到来や東日本大震災の経験など、水道を取り巻く環境の変化やビジョンに掲げた施策の進捗状況、今後の財政見通し等の検証を踏まえ、方策の見直しを行う。</p> <p>主な課題として財政基盤の強化、老朽化施設の更新、耐震化の推進、危機管理対策の充実、コミュニケーションの充実等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営目標 ○「持続」ある水道 <ul style="list-style-type: none"> ・運営基盤強化を図るための効率化に向けて、施設の共同整備、人材育成や業務の共同化といった広域的連携の検討。【追加】 ○「安心・安全・安定」な水道 <ul style="list-style-type: none"> ・配水池や浄水施設の耐震補強、機器類の更新等の見直し。【変更】 ・緊急相互連絡管の増設や緊急貯水槽等による、バックアップ機能の充実を図る。【追加】 ○「環境」 <ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮と経済性の両面を考慮したエネルギーの有効利用策等の情報収集を行い、必要に応じて調査・研究を行う。【変更】 ○「情報公開」 <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントの開催や出展を通じて、市民の皆様が水道事業を身近に感じられる機会の充実を図る。【追加】
--

平成29年度 第1回芦屋市水道事業経営審議会

質問回答

質問No.	3
質問者	政岡委員
質問内容	<p>現在、「阪神水道企業団」との間で経費負担見直しについて「変動比率」に基づき調整をしているところであるが、その妥当性について確認してほしい。</p> <p>については、奥池浄水場における変動比率を算出し、阪神水道企業団と比較してみてはどうか</p>
回答	<p>変動費（総費用に占める固定費以外の経費）を①動力費と②薬品費とした場合、変動比率は以下のとおりです。</p> <p>◇阪神水道企業団の変動比率（平成27年度） ①動力費361,303千円＋②薬品費670,095千円/水道事業費用18,584,399千円＝5.55%</p> <p>◇奥池浄水場の変動比率（平成27年度） ①動力費3,608千円＋②薬品費520千円/奥池浄水場に係る原水及び浄水費69,849千円＝5.91%</p> <p>以上のとおりとなり、それぞれ大きな隔たりはなく、適正な割合と考えます。</p> <p>阪神水道企業団との変動費に係る経費負担の見直し相当額については、未利用水量が年間約140万m^3で、受水単価約62円/m^3 上記の変動比率5.55%を乗じると、約500万円になります。</p> <p>平成28年度、阪神水道企業団の企業努力による経費削減額の芦屋市水道事業への効果額は、年間約370万</p>

	<p>円で概ね変動額には満たないが永続的に続きます。</p> <p>また、これとは別に広域化に伴う宝塚市加入による受水費の削減額は、平成29年度が約400万円、平成30年度以降は年間約2,700万円です。</p> <p>引き続き、阪神水道企業団に対しては、経営改善と広域化に取り組むように要望します。</p> <p>さらに、今年7月21日に開催された管理者会議において、尼崎市より未利用の受水費の見直しに関して、構成5市で協議する提案もなされたことから、この協議会の動向をみていきたいと考えております。</p>
--	---